

2009年4月

ペレットストーブ
シーズンオフの清掃メンテナンス
マニュアル

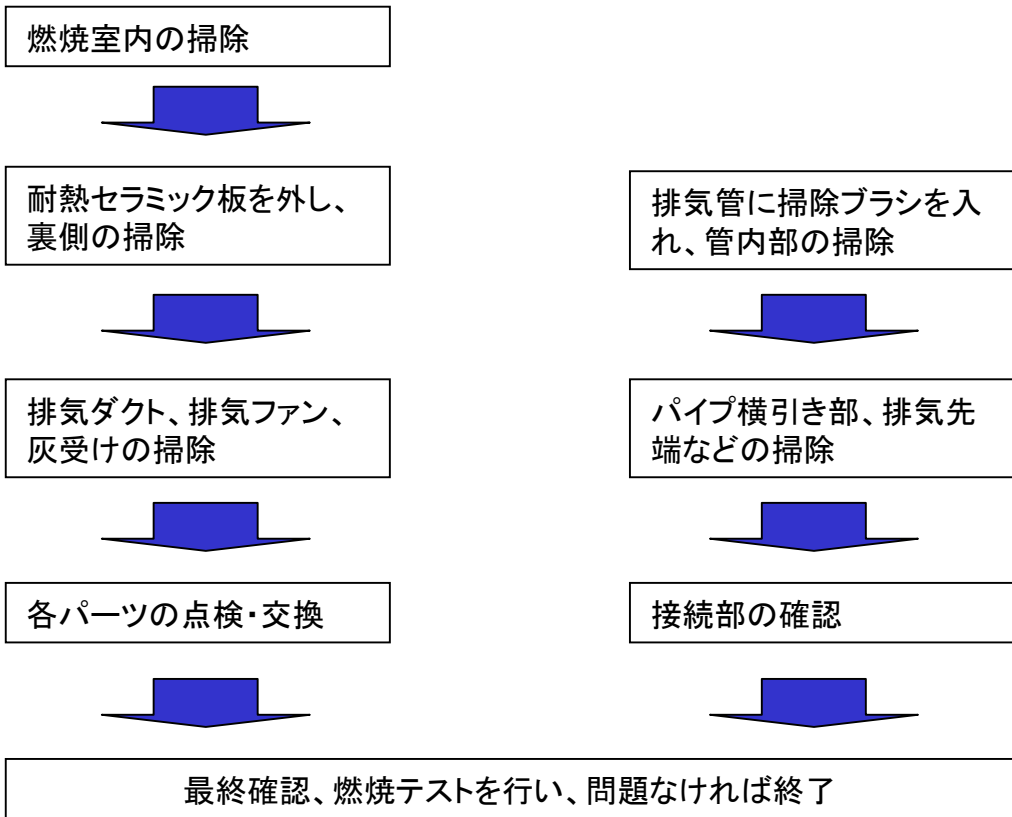
有限会社シモタニ

① メンテナンスの概要

1 メンテナンスとは

ペレットの燃焼により、ストーブの炉内や排気筒内には灰(クリンカー)やススなどが付着してきます。これらが大量に溜まると、ストーブの運転に悪影響を与え、燃焼不良などの支障をきたします。そのため、定期的にメンテナンスを行ってください。

2 全体の流れ



② 作業上のアドバイス

1 ネジ潤滑油の使用

ペレットストーブの各パーツを止めているビスなどは塗装や燃焼熱により固着・膨張を起こすことがあり、無理にビスを取り外そうとすると、ネジ受け側が圧力で潰れてしまい、ネジが取り外せなくなります。潤滑油などを用いてゆるめてください。



2 シーズン終了時にやること ＜ホッパーを空に＞

ホッパー（燃料タンク）内のペレット燃料を全て取り除いてください。もし、燃料を入れたままにしておくと、夏期の湿気でペレットが膨張し、次シーズンにペレットが落ちてこなくなります。



＜湿気対策＞

ストーブの炉内に湿気が入らないよう、給排気管キャップなどを使用してください。



3 必要な工具、機器、部材

プラスドライバー各種、スパナ各種、六角レンチ各種、はさみ、
潤滑油(KURE5-56など)、コーキング剤、掃除用ブラシ、掃除用パイプブラシ、
エアコンプレッサおよびノズル、ビニル袋、
掃除機(フィルタ付きでなく、袋つきのもの)
気密用パッキン(シモタニから販売)
電流値確認用のクランプメータ(可能であれば)

③ 燃焼室内の清掃(オルコット)

1 燃焼室上部

排気板を取り外し、燃焼室上部に溜まった灰やススをきれいに掃除する。

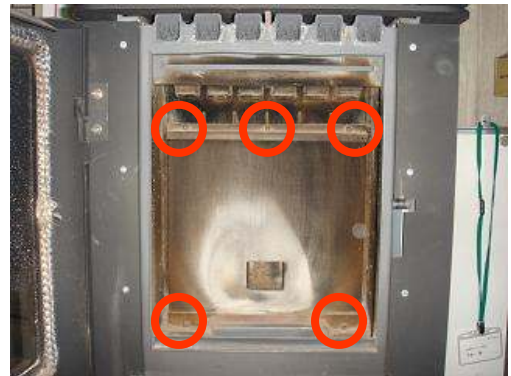


2 この時、熱交換パイプ掃除棒もお使いください。



3 耐熱セラミック板の裏

ボルト5ヶ所を外し、耐熱セラミック板を押さえているステンレス金具を取り外す。



4 耐熱セラミック板を取り外す。



シーズンオフのメンテナンス

③ 燃焼室内の清掃(オルコット)

5 ネジ12カ所を外し、鉄板を取り外す。



6 この時、KURE 5-56等の潤滑油を使用してください。



7 鉄板を取り外したら、排気経路に付着した灰やススをきれいに掃除する。



8 取り外した鉄板の裏にも灰やススが付着しているので掃除する。



シーズンオフのメンテナンス

③ 燃焼室内の清掃(オルコット)

- 9** 鉄板の気密用パッキンを、新しいものに取り替える。固定にはコーキング材を使用する。
このパッキンが損傷していると、給排気の流れが乱れ、燃焼不良の原因になります。



- 10** 灰受けを取り出し、中の灰を捨てる。



11 排気ダクト、排気ファン

灰受けを取り出した状態で、灰受け収納位置の奥にある排気ダクトにエアコンプレッサのノズルを差し込み、エアで排気ダクト内や排気ファン内の灰やススを吹き飛ばす。



- 12** ノズルの先にホースなど曲がるものを取り付けておくと作業がし易い。



④ 燃焼室内の清掃(エマーソン)

1 燃焼室上部

排気板を取り外し、燃焼室上部に溜まった灰やススをきれいに掃除する。



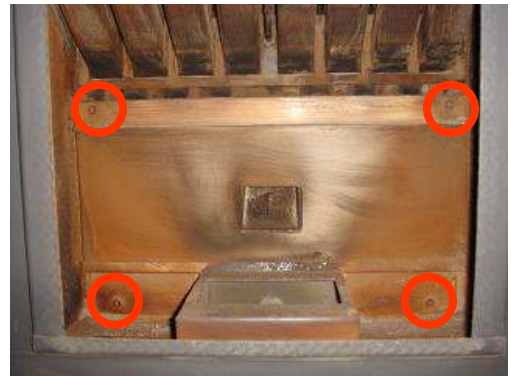
2

この時、熱交換パイプ掃除棒もお使いください。



3 耐熱セラミック板の裏

ボルト4ヶ所を外し、耐熱セラミック板を押さえているステンレス金具を取り外す。



4

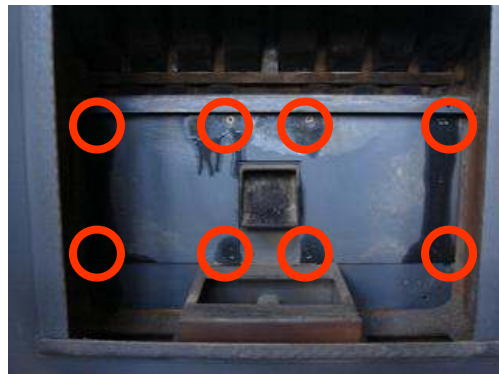
耐熱セラミック板を取り外す。

(写真のように斜めにすれば炉から取り出せます。)



④ 燃焼室内の清掃(エマーソン)

5 ネジ8カ所を外し、鉄板を取り外す。



6 この時、KURE 5-56等の潤滑油を使用してください。



7 鉄板を取り外したら、排気経路に付着した灰やススをきれいに掃除する。



8 取り外した鉄板の裏にも灰やススが付着しているので掃除する。



④ 燃焼室内の清掃(エマーソン)

9

鉄板の気密用パッキンを、新しいものに取り替える。固定にはコーキング材を使用する。

このパッキンが損傷していると、給排気の流れが乱れ、燃焼不良の原因になります。



10

灰受けを取り出し、中の灰を捨てる。



11 排気ダクト、排気ファン

灰受けを取り出した状態で、灰受け収納位置の奥にある排気ダクトにエアコンプレッサのノズルを差し込み、エアで排気ダクト内の灰やススを吹き飛ばす。



12

ノズルの先にホースなど曲がるものを取り付けておくと作業がし易い。



⑤ 排気管の清掃

1 掃除ブラシ

排気管の掃除には、右写真のようなブラシを使用する。



2 T字管

T字管の下にはキャップがついており、回転させると取り外すことができる。



3 強制排気トップ

強制排気トップは鳥や虫の進入を防ぐためのものですが、灰やススが目詰まりを起しやすいので、きれいに掃除する。



⑥ 最終確認、燃焼テスト

1 着火ヒータの電流確認

クランプメータなどがあれば、着火ヒータの電流値を確認する。3.5A以上あれば正常です。



2 燃焼テスト

燃焼室内、排気管内の清掃が終了したら、燃焼テストを行う。この時、

- ・燃焼ポットが確実にセットされているか
- ・灰受けがしっかり閉まっているか
- ・扉がしっかり閉まっているか

を確認する。



正常な燃焼(炎は薄黄色～白色)

3 燃焼の調整

正常な燃焼でない場合は、

- ・ダンバーで空気量の調整
- ・基板のボリュームで燃料投入量の調整

を行う。



異常な燃焼の例(炎が大きく、赤黒い)

4 給排気キャップ

燃焼テストが終了したら、給排気キャップなどを取り付け、湿気の進入を防ぐ。

(給排気キャップを取り付けるときは、強制排気トップを取り外す。)

